

◆司会

それではただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日の発表案件は3件です。

まず、日本一安心して子どもを育てやすい、生み育てやすいまちの実現に向けてということですが、要旨ですけれども、静岡市を日本一安心して子どもを生み育てやすいまちにするために、昨年度、こども未来局を中心に子育て教育環境の充実に向けた研究会を立ち上げました。そして、市民の皆様の声をいろいろお聞きして、それをもとに必要となる施策の検討を重ねてきました。令和6年度は、新たな一歩として子育てに関する不安や要望を踏まえた、新しい支援や取組をスタートしました。しかし、まだまだ課題は山積をしています。今後、山積する課題の一つひとつについて、迅速に新たな取組を進めて、この日本一安心して子どもを生み育てやすいまちの実現に向けて努力をしてまいります。

お手元にですね、こんな資料があると思いますけれども、これ配られていますかね、はい、静岡市の新しいと、言いますか、詳しい子育て施策について、「しずおかし子育てハンドブック」であるとか、「静岡市子育て応援総合サイトちゃむしずおか」、「静岡市ホームページ」これらに記載しています。令和6年度から、いろいろ取組を始めたんですけども、なかなか全体的なお知らせができていないので、今回こういう形でまとめています。

少しだけ、今の静岡市の現状ということを見てもみると、社人研という国立社会保障・人口問題研究所が実施した調査等から、いろんな課題が出てくるわけですけども、静岡市が市民の意識調査をしましたけど、「静岡市は子育てしやすいまちと思うか」という問いに対して、『そう思う』という割合は市民全体の34.8%、特に大事なのは20代、30代というあたりですので、30代については30.6%にとどまっています。そして、30代の30.6%は『そうは思わない』ということになっていますので、なかなか、子育てに対する市民の満足度は低いという状態だと思います。

一般社団法人のスマートシティ・インスティテュートというのが、これが地域幸福度 Well-Being という調査をしていますけど、その中で、「子育て」分野で、この静岡市は、主観指標、アンケートで『どう思いますか、どう感じますか』という主観指標ですけど、これが20政令市中17位。そして、客観指標ですけども、これは外形基準で算定しますが、こちらは20政令市中6位になっています。

したがって、客観指標という外形基準が割合高いわけですけども、市民の満足という点ではですね、要するに実感をしているかという点については、まだまだ不十分だと感じておられる方が多いということです。こういう状況になって、出生数も相当、静岡市落ちて、本当に危機的状況になっていますけど、人口減少対策というのではなくて、問題は個人の幸せという観点だと思います。結婚したい、子どもを持ちたい、静岡市に住みたいという希望が叶わないということ自体が大きな問題だと思っていますので、これまでの市の取組では、そういった市民の皆様の声に十分応えることができていなかったと思います。

したがって、三つの支援の柱というのを定めて、「結婚・出産支援」、「子育て支援」、「子育て支援」と、これらについて、きめ細かくいろんな改善をしていくということをしてまいります。2024年度の取り組みですが、そこに詳しく書いてありますが、項目だけ言いますと、結婚の支援として婚活

イベントの開催、新婚生活にかかる費用の補助、家賃・共益費について最高 80 万円の補助、県内で最高額の 80 万円の補助になります。こうやっているんですが、なかなか広報ができてないので、今日は改めて広報しているということです。

それから、不妊治療に対する経済的支援ですね。先進医療の本人負担分の一部を助成するというのを、県と協調して始めました。

それから、妊娠から子育て期にかけての訪問支援、これは昨年の 10 月から開始をしています。

それから、保育料の負担軽減、第 2 子以降の保育料無償化。0～2 歳児ですけども、2023 年の 4 月から開始しましたけども、今年度からは認可外保育ですね、去年、2023 年からやっているものは認可保育施設ですけども、認可外保育施設についても保育料の助成を始めました。

それから、5 番目、発達の気になる子への支援、こういったことでいろんなことをやっておりますけれども、時間の関係で内容については省略いたします。

そして、こういう案内ですね、かなり詳しい案内を作ってくれましたので、これですね、参考にしていただいて、こんな子育て・子育ての支援があるんだと、そういうことを見ていただいて積極的に活用をいただければと思います。

そして、今の資料の最後になりますけれども、これからどうするかということですが、子育て支援にとって重要なことは、市民の皆様が感じている不安や悩みに丁寧に寄り添い、それを解決していくことです。現在、市が行っている子育て支援は、まだまだ十分とは言えません。本当にこの分野はですね、何か一つやったら良くなるというのではなくて、ありとあらゆる問題を取り組んでいかないといけないと思っています。例えば、子どもが病気にかかったときの預け先の問題、不登校の問題、給食費の問題、医療費の問題、子どもの貧困の問題など、子どもを取り巻く課題というのは、問題は本当に山積をしています。今後、市政変革研究会を活用して、その中で子育て環境を取り巻く多数の課題について指標を設定します。先ほど客観指標と言いましたけども、スマートシティ・インスティテュートが発表している客観指標ですけど、項目が少なくあまり十分な評価ができていないので、市独自の指標値を作って、その指標値を上げていくという努力をこれからしていきたいと思っています。

この指標値の中の項目ですけども、例えば 70 とか 100 ぐらいの項目になるかもしれませんが、それぐらいの項目について一つひとつ丁寧に改善をしていくという取り組みをしていく必要があると思っています。その結果、大事なのは、客観指標ではなくて、客観指標というのは客観的に見て行政的はそうやっていくんですけども、それは市民の皆様が実感として、子どもを産み育てやすくなったなということを実感していただくことが必要ですので、主観指標ですね、どういうふうに感じておられるかということについても調査をして、主観と客観、両方で「日本一安心して子どもを育てやすいまち」、この実現について努力をしていきたいと思っています。そのためには、引き続き市民の皆様のいろんな不安や悩みをお聞かせいただいて、社会の大きな力と共働して、市民の皆様が欲しいと思う支援を実現していきたいと思っています。最初の発表は以上の通りです。

2 番目はですね、PFAS の問題です。三保の雨水ポンプ場で PFAS が出ておりますけれども、高濃度で出ている状況、高濃度で大量に出ている状況を何とか抑えていかないといけないという状況です。そのために、新たな実証実験を実施しますということです。

背景を申します。三保の雨水ポンプ場における PFAS 濃度が高い状況が続いていますけれども、原因はこの三井・ケマーズフロロプロダクツ株式会社、MCF と言いますが、清水工場内の PFAS を高濃度で含む地下水が、何らかの理由で雨水の排水管に入り込んでいるためと考えられます。このため、このポンプ場に集まる雨水排水管の補修や、MCF による活性炭除去装置の実証実験を

実施してきました。しかし、結果としては、これだけではP F A S濃度を暫定目標値であるリットルあたり50ナノグラム以下に低下させることはできておりません。そこで、今後新たな対策が必要だと考えています。

これまでの取組については、そこに書いておりますが、項目だけ申しますと、三保の雨水ポンプ場に活性炭除去装置を設置しております。5月7日から通水試験をしておりますので、まもなく本格稼働にしていきたいと思っています。7月にはもう一つ、もう1基、設備を増設する予定です。

それから、M C Fの清水工場の周辺雨水排水管の補修も実施をしてきました。東と西に排水管があるんですけども、西側については補修済みですが、東側についてはまだこれからということになります。

これまでの取り組みの効果ですけども、濃度はうまく下がっておりません。お手元の資料に最近の調査結果が入っておりますが、こちらですね、一番上は今年の1月5日ぐらいですけれども、特にこの三保雨水ポンプ場内という一番右の欄を見ていただくと、1万とか1,800とかリットルあたりのナノグラムですね、これについて、かなり変動がありますけれども、5,000とか7,000とか1万とか、このレベルのものが出ております。その後もそれほど下がっておりませんが、最近の状況、下の方を見ていただくと、補修が少しずつ終わってきて、本当はこれで雨水の排水管の中に流れてくる地下水の量が減って、これで濃度が下がらないといけないんですけど、なかなか下がっていないという状況です。最近の4月16日に4,000、4月23日が4,000となっておりますから、少し下がってきているとも言えないこともないんですけど、ちょっと様子を見ないとまだ確証はできないような状況です。ただ、まだ50に対して4,000ですから、とんでもない高さの量になっていきますので、何とか対策を進めないといけないと思っております。

新たな実証実験ですけども、これをこれから開始するということで今、進めています。概要ですけども、ある企業からこのポンプ場でP F A S除去を実現する技術の実証実験を行いたいとの申し出がありました。企業の研究施設で、ポンプ場で採取した水を用いてP F A Sの簡易除去試験を行ったところ、除去効果が確認できたとの報告がありました。この結果を受けて、この企業からポンプ場に実証施設、加圧浮上分離装置というものですけども、これを設置して実証実験をしたいという申し出がありました。したがって、今後、この現地実証実験に向けて、この企業と調整を進める予定です。経緯がありますけど、経緯は今申し上げたようなところですね、省略します。

今後の予定ですけども、現地実証実験として、加圧浮上分離装置をこのポンプ場に設置して、2～3か月間の実証実験を行います。実証実験はすぐに準備を開始して、準備が整い次第7月頃から検証を開始します。実証実験で使用する設備は、この企業が所有して、現在、福島県で別の実証実験を行っている機材を移設する予定です。1日あたりの処理は200トン进行しております。

静岡市の方針ですけども、この実証実験を行う事業者ですが、これは山梨県の富士吉田市に本社を置く株式会社Aホールディングスという会社です。この会社の複数のグループ企業が静岡市内に本社を置いて、P F A S除去に限らず様々な環境関連の技術開発を行っていくとの方針です。静岡市は市政運営の方針としても、「社会の大きな力」×「世界の大きな知」による「共創」、ともに創っていくのを促進するとしています。この会社のような、新たな知・技術によって社会課題の解決を行おうとする企業や研究機関について、これを歓迎して、積極的に産学連携などを推進して、SDGs未来都市としての具体的行動を進めていきたいと思っております。

次は、インターナショナルスクールについてです。インターナショナルスクールについては、静岡市と静岡商工会議所で共同で実現に向けて取り組んでまいりましたが、先般、協議会を開催されて方向性が固まりましたので、これからは具体的な動きにしたいと思っております。要旨のところに

書いていますけれども、このインターナショナルスクール誘致推進協議会というのを設置して、誘致に向けた実現可能性について協議を行ってきました。インターナショナルスクールですけれども、これは地域産業を支える人材の供給という面、そして学びの選択肢を広げるという教育的側面、その両方で大きなメリットがあることが確認をされました。

そして、併せて、静岡市にインターナショナルスクールを開設する意向があるかという、市場調査を実施しました。その結果、参入意欲を持つ民間事業者が複数確認をされました。したがって、誘致の可能性は高いというふうに考えております。その一方で、誘致のためには土地の確保などが必要になってきます。そこで、市と商工会議所はインターナショナルスクールの誘致ではなくて、インターナショナルスクールの開設の実現に向けて、5月10日にそれぞれに支援チームを設置いたしました。支援チームは、インターナショナルスクールの開設に向けた企業関係団体等の具体的な動きや課題に対して、相談や課題解決支援などの下支えをしていきたいと思っております。あくまでインターナショナルスクールを開設するのは、民間事業として行われますので、その事業者のそういった動きを下支えしていきたいと思っております。発表案件は以上です。ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただいまの発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。

はい。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。PFASについて伺います。1の背景の3行目、「何らかの理由で雨水排水管に入り込んでいるためと考えられます」とありますけれども、これは市とMCFが調査をしているけれども、まだ原因がわからないのか、それともある程度わかっているけれども絞りきれていないのか、そのあたりいかがでしょうか。

◆市長

我々が考えていたのは、これはMCFとも協議の上ですけれども、この排水管にひび割れ等があって、そういったところから地下水が入ってきているというところなんです。管の状態ですから、管が健全であれば、地下水は入り込まないで、雨水ですよ。雨が降って水が雨水管を通っていくだけです。大きな濃度にはならないはずですけども、濃度が高くなるということは、高いPFAS濃度の地下水が何らかの形で入ってきている。何らかの形というのは、おそらくひび割れを通じて入ってきているのではないかとということで推定をしておりました。

それはある程度その通りだったと思いますけども、ただ結果がまだ十分出ていませんので、原因はこれだけだということで、これだけというのは、ひび割れだけと特定できていないと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい。では、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。同じくP F A Sについて伺います。何点か伺いたいんですけども、まず三井さんが設置した、この活性炭塔の処理能力というのを教えてください。

◆市長

処理能力はいくらでした。50トンですね、50トンですね。日量50トンです。1日で50トンになります。

◆中日新聞

あと、あの、このお写真がモノクロなのは三井さんのご意向でしょうか。

◆市長

そちら、ごめんなさい。こちらカラーになっているので、申し訳ない。配っているのが、こちらはカラーになっているので。申し訳ありません。お配りしているのが、ちょっと費用の節約の関係で、申し訳ございません。

◆中日新聞

三井さんの以前活性炭塔の写真を提供してもらったときに、モノクロしかいただけないと言われたことがあったので、ちょっと聞いてみました。あと、この2ページ目にある、企業なんですが、経緯のところに同企業と書いてあるこの企業と、この山梨のAホールディングスはイコールですか。

◆市長

同じです。はい。

◆中日新聞

この企業は、本業は何をやっている企業で、他市町でもP F A S除去で実績があったりするんでしょうか。

◆市長

Aホールディングスになっていますが、会社の意向で発表は自分たちでされたいということですから、そちらは発表があると思います。今、この福島で実証実験をしているというのはありますけれども、これはあれですね、トリチウムを取っているということですね。ですから、原子力系のセシウムであるとか、トリチウムを取る実験をしていて効果を上げておられるようですから、やり方としてはトリチウムなんかを取るものと同じやり方でできるということですので、それをこちらに持ってきて、P F A Sについても効果があるかどうかというのを確認したいということです。

◆中日新聞

P F A Sについては、実績はまだないというか、応用できそうだけでも…

◆市長

はい、それで簡易実験ということで。これはポイントはですね、加圧水という圧力の高い水を吹き

込んで水中に泡を作って、そこに、泡にそういうセシウム、ごめんなさい、このP F A Sが吸着をして、その出来た泡を凝固剤のようなもので固めて取り出すっていう技術のようです。

簡易実験をやったというのは、高圧水を吹き込むのではなくて、凝固剤でとりあえず取ってみたということですね。そうするとP F A Sが凝固された形で取れて、この結果でいうと、5,300 ナノグラムだったものが、3,600 ナノグラムまで落ちているという状況です。

ただ、それは先ほどの加圧水を入れてないので、泡に吸着した形で凝固させてないので、それほど落ちてないわけですけども、この加圧水を入れてやれば、これで使えるということです。

あと、実用化という面では漁業関係でよく使われているようです。例えば、魚を処理したときに血であるとか、そういうのが出てきますけども、それを固めて除去するっていうのは、排水にそのまま流すんじゃなくて、固めて除去するというので使われているようで、それはもう実際に実現をされているということですが、実現ではなくて実用化されていますが、こちらの化学物質ですね、化学物質についてはまだ実証試験中のようです。

◆中日新聞

ありがとうございます。あの、こういう企業が出てきて、これから実証実験が始まることについて、市長の受け止めだったり、期待感をお願いします。

◆市長

はい、やはり、先ほど資料の中にも書きましたけど、社会課題がある、それに対して社会の力大きな力であるとか世界の大きな知恵が集まってきて、何とか解決しようっていうことですね。これが非常に大事で、それは市政運営の方針にもしていますので、こうやって実証実験をやりたいと申し出をしてくださっていますので、これはぜひ効果が出るということの確度は非常に高いと思っていますけども、こういった形で実証実験をやって、共に創る、環境に対して新たな方法を創り上げていってですね、よりよい社会に貢献していくということが大事だと思っていますので、市政の運営の方針ともぴったりに合っているものですから、積極的に応援というよりも、共に働く共働ですね、共に働いていきたいと思っています。

◆中日新聞

4番の方針のところで、今後、同社の複数のグループ企業が市内に本社を置きとあるんですけど、これは、いつ頃とかあります…。

◆市長

これはこちらの会社の意向のようですので、私どもから申し上げることはできませんので、もしよろしければその会社に問い合わせいただければと思います。問い合わせというよりも、おそらく、近々この会社からも発表されるんじゃないかなと思いますので、そちらの発表されたときにお聞きいただければと思います。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。同じくP F A Sの関係で確認なんですけども、この企業が行った簡易の実証実験

だと、5,300 ng/L が 3,600 ng/L まで下がったということなんですが、これはそもそも、暫定目標値の 50 ng/L まで下がるようなことは期待できないんだけど、少しでも下がればいいというような期待から行っている、そういう趣旨で行うということでしょうか。

◆市長

実証実験されたのは、P F A S が凝固できるかどうかの確認をされたのだと思います。それで凝固できるということで、先ほど申しましたが、もう一つ大事なのは、水中に泡を発生させて、その泡に P F A S がくっついて、それが上がってきたところに凝固させるという、この二つの工程が大事なわけですけども、この二つの工程をすれば、理論値と伺っていますけど、理論的には 50 ナノグラム以下になるということを聞いています。

ただ、それはあくまで理論上、あるいは今までの試験上の問題ですので、現地で実際に動かしてみてもどこまで下がるかっていうのを確認するのが必要ではないかと思っています。

◆静岡新聞

あと、実証実験の 1 日あたりの処理量約 200 トンということなんですが、すいません、そもそもこの雨水ポンプ場で発生する水量っていうのはどれぐらいで、要は全体の何%ぐらいが対象になって考えれば…

◆市長

1 万トン近く毎日出ていますので、それをどうやって、どうするかという問題があります。

それから、まだ 200 トンとなっていますけど、実証プラントですので、実際には何トンのものをつくるかっていうのはまた別問題だと思っています。

ご指摘の通り、先ほどの活性炭の除去装置ですけども、これですと日量の処理が 50 トンになりますので、2 基に増設しても、日量 100 トンしか処理できないんですね。それに対して 1 万トンの水が出ていますから、その状況ではとても下げられないということですね。

したがって、活性炭の除去装置だけで耐えるのではなくて、まずは元々の P F A S 濃度を下げるという努力ですね。この雨水排水管に何らかの形で P F A S が入ってきているので、その濃度自体を下げた上で、その後は活性炭の除去装置を使ってその濃度をさらに下げて、どこまで 50 ナノグラムに近づけるかというようなことになると思います。

とにかく、やれることを一つひとつやっていかないといけないということですので、その取り組みということになります。

◆静岡新聞

そして、あとインターナショナルスクールの関係で確認です。支援チームを今日設置したということですが、対象となる支援の下支えの対象となる企業っていうのは、すでにサウンディング調査で意欲を示しているような企業が、複数確認されたとおっしゃっているので、こういった企業が下支えの対象になるということでしょうか。

◆市長

そうなりますね、はい。こういう発表をしましたので、本格的に設置したいのですがということで、ご相談に来ていただければと思います。

やはり、土地の確保であるとか、いろんな課題があると思いますので、そのあたりについて一緒に

考えていくということをしていきたいと思っています。

◆静岡新聞

この支援チームは、静岡市と静岡商工会議所が一体となって、一つ設置したっていうわけではなくて、それぞれが支援チームを一つずつ設置したっていうそういう意味ですか。

◆市長

そうですね。一体となって動きますので、市は、やはり行政的な支援になりますし、商工会議所はもう少し、企業としての支援といいますか、ビジネスとしての支援ということも視野に入ると思います。

◆静岡新聞

設置した具体的な部署というのは、この最後の相談窓口に書いてあるところに設置したということであ...

◆市長

そうなりますね、はい。総合政策局の企画課と、商工会議所清水事務所産業振興部になります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。日経新聞さん、先にお願いいたします。

◆日経新聞

はい。日経新聞です。同じくインターナショナルスクールについてなんですが、清水事務所に設置されたって商工会議所のという点で、いわゆるインターナショナルスクールを静岡駅の近くじゃなくて清水駅の近くに置きたい、みたいな考えもあるということですか。

◆市長

これは商工会議所のご判断だと思います。どの場所に設置するかということで、スペースの問題だとか、人の問題だとかありますので、どちらかというと、人の配置の問題だと思います。

◆日経新聞

市長としては、インターナショナルスクール、外国の人材が集まってくるというふうに思っているということだと思うんですけども、静岡駅の方が良いと思っているのか、はたまた清水駅の方がいいと思っているのかって現状の考えってというのはどちらなんですかね。

◆市長

駅の周りというよりも、やはりインターナショナルスクールはある程度環境の良いところが必要ですので、静かな環境のところが必要だと思います。

その一方で、あまりにも駅から遠いところというわけにはいきませんので、その辺りどこがいいか

というようなお話もいただいて、面積でこのぐらいの土地がいるんだけどどっかいいところないですかというような相談があれば、市としてもいろいろ、今まで調査をして、インターナショナルスクールのためじゃなくて、企業立地、企業様の用地のためにいろんな調査をしていますから、その規模だったらこんなところありますけどどうですか、みたいな提案はできていると思っています。

◆日経新聞

最後に、このインターナショナルスクールの誘致の目処っているのは、現状どれぐらいの規模感、スケール感を考えているんですか。

◆市長

できるだけ早くとは思っていますけども、設置をしてすぐできる、建物もつくる、既存のものを使えば別ですけど、新たに建物をつくるとなるとですね、3年ぐらいはかかると思いますので、早くて2027年ぐらいの開校かなと想像はしていますけども、それは事業者の方々がどう思われるかです。ただ、来年から開設というわけにはいかないの、3年後ぐらいの開設を目指してやるというのが現実的ではないかなと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい、毎日新聞です。P F A Sで。私の聞き漏らしなのかなと思うんですけど、Aホールディングスですけど、具体名がAホールディングスでなくて、現在は名前を伏せて…

◆市長

ごめんなさい。具体名ですね。

◆毎日新聞

具体名としてAホールディングス…すいません。ありがとうございます。

◆市長

すいません。ちょっと分かりにくいですね。

◆司会

はい。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

すいません。P F A Sでもう一件お願いします。この三保雨水ポンプ場は、1日の排水量が1万トンで、それが分かっているのに、なぜ三井さんは50トン、1日50トンの活性炭塔にしたんでしょうか。外に設置するのかと思ったんですけども、2基とも内部に設置するということで

合っていますか。

◆市長

まだ、どこに設置するかは決めていないですね。増設、例えば2基とか3基とか増設する可能性もありますので、とりあえずは今の予定ですと2基になっています。これはどこにでもある装置ではありませんから、今入れたのは工場内にあったのを移設してきたものだと思いますけれども、これから新しいものをつくってそれを持ってくるとかそういうことがあるので、すぐに確保できないということで、そういうことになっています。

◆中日新聞

ひとまず、応急処置的な1基目という…

◆市長

少しでもできることをですね、効果が小さいからやらないっていうんじゃなくて、少しでも濃度を下げるということがやっぱり大事ですから、できることは、一つひとつやっていくということですね。その積み重ねによって濃度が下がっていくと思います。

◆司会

はい。その他、発表案件につきまして、朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

すいません。ちょっと具体的な話じゃないんですけど、インターナショナルの話で。昨日、何だっけな、川勝さんの退任会見でインターナショナルスクールがちょっとだけ出て…。すいません、どっちかというと違う方が面白かったんですけど、それはいいとして。将来的には秋田の国際教養大学とか、大分でしたっけアジア太平洋大学とかみたいに、静岡になんだっけな、富士マウンテンスーパービューユニバーシティみたいな、そういうのをドカンと真ん中に置くといいのではないかと。その一環で、このインターンシップの話もちょうと出たんですけど、これってそういうものも含めて今後目指していくとか、そういう構想ってありますでしょうかという…

◆市長

県とはいいですか、川勝知事とはインターナショナルスクールの話をしたことはあります。そして、県としても応援をしますよと、県としてというか、川勝知事として応援をしますというお話はいただいています。そのときにも今の、国際大学の話が出てですね、インターナショナルスクールの場合は、もしできればの話ですけども、13学年になりますので、年長さんから高校までということになります。その後、その方々がどうするかということですけど、そういった国際大学っていうのが静岡にあれば、そこに進学するということもありますので、そうするとやはり、年長さんから高3、そして大学、そういったところで国際的な教育ができるというのは大事なので、それは今もう知事はお代わりになったので、新しい知事がどうされるか分かりませんが、県がそういう国際大学を作られるのであれば、市がこういうインタースクールですね、高校生までっていうところをつくっていくと、お互いに連携ができるんじゃないかなと思っています。

それからもう一つ関連しますと、今プロジェクトチームを作ってますね、「日本一留学生が住みやすいまち静岡」という形で今、打ち出していこうとしています。やはり、これからは国際的な人材

に来ていただくというのが、この人口減少の中では非常に大事だと思っています。多様な人材が来て、その多様な人材を受容する環境があって、そういう多様な人材が接することで、新しい結合が起きてイノベーションが起きるっていうのがよく言われることですので、そういう面でこれからやはり国際化を静岡市としては目指していくというのが極めて大事だと思っていますので、このインターナショナルスクールというのは多様性の受容のようなところですね。

それからSDGsでもあるわけですね。誰ひとりというか、全ていろんな方に来ていただくようなまちですね、それを実現するためにもインターナショナルスクールが必要だと思っていますので、そういう面では政策的には一貫しているものと考えています。

◆朝日新聞

すいません。今ので、ありがとうございます。関連して、プロジェクト「日本一留学生が住みやすいまちプロジェクトチーム」もできている…

◆市長

そうですね。これは今年の4月から局とか部とか課・係という縦割り組織と、横のチーム組織を、両方で仕事をしていくということになりましたので、その中でその横のチーム組織として、これは局課横断的なものになりますけど、その一つとして「日本一留学生が住みやすいまち静岡」っていうチームを作って、検討を始めているところです。

◆司会

はい、その他発表案件についてのご質問、はい、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

くどくてすいません。読売新聞社です。PFASについて、もう1点確認させてください。地下水が雨水排水管に入り込んでいる理由なんですが、ひび割れ以外に考えられる理由っていうのはあるんでしょうか。あるいは、さらにその理由を探り出すことは難しいんでしょうか。

つまり、今、発表されている取り組みっていうのは、どちらかというに対処療法で、原因となるところを突き止めてそこに対策を講じる根治療法治療っていうか、そういうことができてないと、なかなか低減するのは難しいかもしれないと思うんですが、いかがでしょうか。

◆市長

根治療法はいろいろあるわけですけども、まずは工場の中が、おそらくPFAS濃度が、工場の中っていうのは水だけじゃなくて、工場の土壌も含めてたぶんPFAS濃度が高いので、それが地下水に入っているのだと思います。したがって、一番の根治療法は、工場と外の地下水の動きの遮断ですね、周りをぐるっと遮水壁で囲って出ないようにするというのが、一番根治対策ではないかと思います。

今、これは雨水ポンプ場の問題になっていますけど、あそこは地下水があの付近で、三保のあたりで流動していますから、工場外の地下水と工場内の地下水は流動しているわけですね。それが工場の外の地下水濃度も上げていることになっていますから、本当はそれはMCFの工場の中だけで地下水を止めるのが非常に大事だと思っています。

ついでになりますけども、地下水の遮断はしにくいと言われているんですけども、三保の場合は特殊な状況になっていて、海水の上に淡水の地下水が浮いた状態になっていますので、遮水壁を

海水まで入れてやれば、地下水が海水の上に浮いた状態で遮断できますので、そうでないところは淡水がいろんなところが回り込んでいきますけど、この場合は海水の上に浮かんでいるので、独立をした状態にできるので、それが一番いいかなと思いますが、それについてはこれから三井さんといろいろ相談しないといけないと思っています。

それとともに、次にある根治療法は、ポンプ場への排水、流れ込みの根治療法のところですけども、これについてはちょっと原因はなかなか分からないので。分からないというか、ひび割れではないかと思っていますので、それを直していきますが、まだ東側については十分対応ができていないので、さらに言うと西側が一番悪いので、西側を何とかすれば、P F A S 濃度が下がると思っていたらそれほど下がらないので、東側もしっかりやっていかないといけないので、今やっているという状況です。

東側の修復が終わったところで、どのぐらい下がるかを見てですね、それで差がなければもっと別のルートもあり得るということですけど、なかなかその特定はしにくいかなと思っています。以上です。

◆司会

発表案件につきましては、以上ということによろしいでしょうか。

はい、では、幹事社質問に移りたいと思います。毎日新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆毎日新聞

はい。毎日新聞です。よろしくお願いします。昨日、知事選挙が告示されまして、それに関してもお尋ねしたいことがあるんですが、幹事社質問としては別の一般的な項目で一つお尋ねします。

ちょうど今日から利用が開始されるタイミングですけれども、プレミアム付デジタル商品券についてお尋ねします。物価高騰対策としての政策ですが、昨年で言うと P a y P a y が使われてかなり好評で、おそらくというか、想定以上に早く予算を使い切ったっていうような形になったかと思うんですけれども、今回については専用アプリをかなり時間かけて作って準備しての、このタイミングでのスタートになったと思います。用意されたのは52万口、32億5,000万円分ということで、申し込みをする方法で既に締め切られたと思うんですけれども、実際申し込みの状況はどのようなものだったのかということをお尋ねします。

また、3月26日の市長会見でこの件についての発表がありまして、市長は、その時利用可能な店舗数として、4,000店舗ぐらいになるんじゃないかっていう数字を上げられたと思うんですけれども、これも昨年の P a y P a y だと1万とか使えたかと思うんですけれども、今回、方法が変わった中で、どのぐらいの利用可能店舗でスタートできるのかというところをお尋ねします。よろしくお願いします。

◆市長

はい、ありがとうございます。まず申し込み状況ですけれども、52万口、32億5,000万円に対してですね、約31万口、19億3,750万円分の申し込みをいただきました。52万口との差、20万口、差があるということになりますので、これについては6月3日からですね、2次募集をしたいと思っています。

それから利用可能な店舗数ですけども、4,000店舗というお話をしましたが、5月7日時点で約3,500店舗、3,100店舗以上の参加申し込みをいただいていますので、予定に近い状態でスタートできるなと思っています。飲食店とか小売店とかですね、スーパー、ドラッグストア、ショッピングセンタ

一、百貨店だとか、理容室、美容室など、いろんなところで使える状態になっています。利用できる店舗は、商品券のしずく商品券特設ホームページというのがありますから、そちらを見ていただければ分かっていきますし、これからもまだ、店舗募集は行っていくので、利用店舗数はこれからも増えていくというふうに考えています。以上です。

◆毎日新聞

はい。52万口に対して31万口で、予算というか、32億に対して19億余りということで、これは、超えたら抽選だったと思うんですけども、超えることなく逆に今、かなりまだ下回っているということですけど、それは何か理由の分析というか、そんだけ下回ったというのは何か理由が考えられるのでしょうか。

◆市長

はい、初めての取り組みでしたので、その周知だとかですね、少し手続きが面倒だと受け止められたかもしれないです。以前はPay Payでしたけど、Pay Payは日常的に使っているものでそれをやるわけですから、あまり抵抗なく、追加的なことをすることなくできるわけですけども、これは新しい取り組みですね、デジタルの商品券でやっていますので、まだ十分周知が行き届いてないのかなと思っています。

他の都市でもですね、同じようなことをやっているところはいくつかありますけれども、そこを見ても、だいたい概ね60～70%ぐらいの一次目ですね、なっていますので、そういうこともあり得るのではないかなと思います。

個人的には、抽選と言っていたぐらいですから、もっと多く申し込みがあると見込んでいたんですけども、やはり、まだまだちょっと周知が足りなかったかなと思っています。

◆毎日新聞

簡単な補足質問ですけど、すでに申し込んだ方は、2次募集が始まったらさらに申し込めたりするのでしょうか。

◆市長

はい、申し込みはできるようにしています。

◆毎日新聞

一人4口だけど、それを超えて…

◆市長

改めて。2次募集ですので、もう1回改めて募集をします。

◆毎日新聞

はい、わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい、では、今の幹事社質問に関連したご質問があればお受けをしたいと思いますので、いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。

はい、では、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。昨日ですね、長年、難波さんが副知事として仕えた川勝さんが退任されました。退任の受け止めと、あと難波さん、昨日、川勝さんと最後、面会をしたとのことですが、どんな話をされたのか教えてください。

◆市長

はい、たいへんお疲れ様でしたと。15年に渡ってですね、知事をお務めになられて、いろんな取り組みをなされたと思っています。最後、残念なことはありましたけども、とにかく長い間お疲れ様でしたというお話をさせていただきました。私自身の思いもそういうことです。

それからもう一つは、10年前に私は静岡市に参りましたが、静岡市との深いご縁ができたわけですが、それは川勝知事が副知事として呼んでくださったからで、川勝知事については、昨日、川勝知事に面会をしましたけども、その際に、まず、そのお礼をさせていただいて、副知事時代かなり自由に仕事をさせていただきましたので、そのお礼とですね、そして、少し昔話といますか、そういう話を、あんなことありましたね、みたいな話をした上で、本当にお疲れ様でしたということをお伝えいたしました。

◆静岡朝日テレビ

その昔話の中で、一番盛り上がった昔話ってどんな話だったんですか。

◆市長

特にはあれですね。川勝知事は、やはり県庁の中だけで仕事をするんじゃない、これも今、私も言っていますが、世界には大きな知性があるので、それと色々な話をしながら、そして社会に大きな力があるので、それを活用するのが大事っていうところは、知事と同じだと思いますので、そういった点で、例えば、幹部職員会議みたいなのを毎月やっていましたが、そこでいろんな講師の方が来られてエッというような話をされるので、それがやはり、さっきちょっと申しましたが、いろんな多様な考え方とか価値観が入ってくると、そこでオヤッと思って気づきがおきて、新しい取り組みをしようかということがありますので、そういう取り組みは大事でしたよね、というような話をいたしました。

◆静岡朝日テレビ

すいません。ちょっとそれに関連して、知事選が始まりますけども、難波さんは前回の定例市長会見で、特定の候補を応援するのは地域間の分断を招くので避けたいとお話されました。ただ、大村候補の総決起集会ですとか、出陣式で難波さんは友人として駆けつけていらっしゃいました。その友人というのは、私的な友人なのか、それとも仕事上の官僚時代の付き合いの友人なのか、今後は静岡市長の難波さんとして、大村候補を応援するお考えがあるのか教えてください。

◆市長

応援はですね、友人としてということですから、私ですね、私ごととして古くからの友人ですから、友人がその知事選に挑戦するということですから、それについては応援をするということで、駆け

付けているということです。言葉の定義の問題かもしれませんが、応援するということと支持するというのは、ちょっと違うかなと思っていますので。支持するというのは、支え持つということですが、相当深く関わっていくということですけど、応援というのは頑張ってくださいねっていう、いい結果が出るように願っていますよということですから、それは友人として当然の行為だと思いますので、そういうことで応援をしているということになります。

これから先どうするかということですけども、どうしてもですね、私が表明をしたからどうなるわけではなくて、県民の皆様が判断され、実際に票を入れられるわけですけども、やはり鈴木康友さんは前浜松市長ですので、静岡市長がそうではない人を支持という形で表明すると、何かやはり浜松と静岡市みたいな感じが出てしまいますので、それはやはり望ましいことではないと思っていますので、あえて、そこは明確な支持はしない方がいいと思っていますので、どちらかを支持するということは表明しないという考えです。

◆静岡朝日テレビ

長くなってすみません。あと一点だけ、それに関連して大村さんは友人だということですけども、鈴木さんは友人ではないということですか。

◆市長

友人というか、古くからの友人ですね。何度も酒も酌み交わして、激論をしたりしていますので、政策の、地方行政のあり方のような問題について、ずいぶん議論をしていますので、そういう面では古くからの深い関係のある友人だと思っています。

鈴木康友さんも、副知事のと時からいろんなことで、お話をさせていただいて、5月8日ですけど、鈴木康友さん、市役所に来られましたので、そこで少し意見交換をさせていただいてですね、鈴木さん、スタートアップの支援とか一生懸命やられていて、静岡市も今年から相当スタートアップ支援について積極的に取り組んでいくわけですけども、そのあたりについても意見交換をさせていただいたりしていますから。友人かどうかというよりも、これは同じ市政を、あるいは行政を担った者としてですね、いろんな面で政策であるとか、行政の執行のあり方、仕事の仕方とか、そういうことについては意見交換をしていくことを今までもやってきましたので、そういう関係だと思っていただけだと思います。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。先に、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。すいません、城北公園の再整備事業の関係でお伺いしたいんですけども、先日ですね、一部の住民の方が、手続きにちょっと瑕疵というか、違法性があるってことで、静岡地方裁判所の方に住民訴訟を起こしてしまして、それが、判決が静岡市側の主張が全面的に認められて、言ってみれば静岡市側の勝訴という形で確定したというふうに確認しているんですけども、これを受けて、今後の事業の展開ですね、これをどう考えているのか教えてください。

◆市長

はい、まずはですね、訴訟でしたのでこれについてですね、勝訴と言いますか、原告団の主張が棄却されたということはですね、これは前向きに受け止めたいと思っています。

ただ、これは、訴状の内容は手続きの問題ですので、これについては市のやり方について問題はなかったということですけれども、問題は、いろいろ反対がありましたけども、城北公園のP a r k - P F Iについてはいろいろ反対がありましたが、それは手続きの問題もありますけど、やり方ですね、住民の合意形成の仕方、住民の合意の取り方であるとか、地域住民の皆様への説明の仕方だとか、そういうところに問題があったので、ああいうことになったんだと私は思っています。

これからどうするかということですが、あの公園を今の状態ではなくて、もう少し違う形で再整備するというのは、それはやるべき方向だと思っています。ただ、その内容を今までの状態のままやるのか、もう一度どういう整備の仕方がいいのかっていうのを考えるっていいののかというと、やはり今までのやり方じゃなくて、もう一度原点に返って、よりよい公園利用ができるようにするためにどういう整備の仕方をしたらいいのかっていうのを考えるべきだと思っています。これについては、訴訟の期間中も市の中ですでにいろいろ検討をしておりますので、これは、この判決が出たということもあって、これから新しくの再整備のあり方について、中で早く決めて、それで、改めてこういう形でやりたいんですが、というご説明をするようなことにしていきたいと思っています。

◆静岡新聞

すでに 2021 年の4月に民間事業者と公園のP a r k - P F I 事業に基づいた整備に関する基本協定を締結しているわけなんですけども、この基本協定の内容を軸にして、再検討するというような考え方でしょうか。

◆市長

軸にしてというよりも、例えば、あそこにテナントが入ってくるというような話ありましたが、あまりそれは前提にしないでですね、もう一度どういう公園にするのがいいのか、より魅力的な、あるいは、より親しみやすい公園にするためにどうしていったらいいのか、というのを考えたいと思っています。

ただし、基本協定はまだ継続していますので、今の状態で次にどうやるかを決めていない段階で基本協定を破棄する必要はないと思っていますので、基本協定を破棄しないで残っている状態になります。

しかし、残っているからそのままやるのかというと、またそれは違いますので、改めて判決を受けて、改めて、どういう公園にしていくかを早急に決めていきたいと思っています。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。先に、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡新聞

すいません。二つだけ確認で、今後、知事選に向けて鈴木候補の演説の現場にも行くお考えはあるのかと、あと、リニア問題に関して川勝さんが退任をされて、あと、J R 東海が20日にボーリング調査を開始したいというようなことを言っていて、状況が変わっていています。改めて、静岡市長として、リニア問題、川勝さんがいない中でどう取り組んでいくか、この2点をお願いします。

◆市長

はい、まず応援についてですけども、これから両候補とも今現在のところということですけども、マイクを握って応援するような形ですね、それは取るつもりはありません。

それから、リニアについては、これはどなたが知事にならなれようとも、市として考えていけないといけない問題がありますので、それはリニアが通過するところは、静岡市の市域の中にありますので、市として環境影響評価に関わっていくということは当然のことだと思いますので、市としての見解をしっかりとまとめていきたいと思っています。

最近の状況を見ると、市の取り組みが先行しているような状況だと私は思っていますので、できるだけ早く市の見解をまとめて、それは世の中にお示しするとともに、静岡県であるとか、あるいは国が作られた監視の委員会についても、市の考え方は説明をしていきたいと思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございました。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆市長

ありがとうございました。

◆司会

次回は5月24日、金曜日の予定となっております。よろしくお願いいたします。